

まず、中心市街地のまちづくり、「くまもと街なか広場」についてです。

- 1、花畑広場・シンボルプロムナード・辛島公園の整備費用と、その内訳をお示しく下さい。
- 2、利用見通では、事業者と営利目的でない一般の市民、それぞれの程度利用を想定されていますか。件数・割合、利用料収入をお示しく下さい。
- 3、条例案での利用料金は、休日に終日利用すれば、617,000円、これまでの花畑広場利用料の2倍です。積算根拠をご説明ください。
このような高い利用料金で、一般の市民が利用できるとお考えでしょうか。一般の市民が気軽に利用できるような料金設定にすべきではないでしょうか。
- 4、熊本市行政財産使用条例では、条例に定めない場合の土地の使用料を「1年につき当該土地の前年度の固定資産税評価額に100分の4を乗じて得た額に当該土地のうち使用させる部分の面積を乗じて当該土地の面積で除して得た額」と定めています。この計算式で計算した場合の使用料は、いくらになりますか。
- 5、条例案には、市長が認めれば使用料を減免できるとあります。考えられている減免内容をご説明ください。
- 6、これまでの花畑広場は、市民が非営利で使用する場合は無料とする減免がありました。「街なか広場」も、現行の減免制度を継続すべきではないでしょうか。
- 7、広場の管理を指定管理にする理由は何でしょうか。
1点目、2点目、4点目は都市整備局長に、その他は市長に伺います。

(答弁)

当初予算案には、債務負担行為で街なか広場の指定管理料が提案されています。年間7200万円です。局長は、街なか広場の利用料収入を年間5600万円と答弁されたので、指定管理事業者は指定管理料と利用料収入合わせて1億2800万円で管理運営することになります。

局長に伺います。施設面積が街なか広場の約5倍の熊本城ホールの管理費は、地下駐車場部分を除き、年間6億6700万円です。街なか広場の約5倍です。広場の管理単価が熊本城ホールと同程度とは、高すぎると思われませんか。市民の理解が得られるとお考えでしょうか。

(答弁)

熊本市には、大小合わせて1135カ所の公園緑地があります。面積で722万平方メートル、管理費は全部で年間約22億円です。1ヶ所の広場管理に1億2800万円というのは到底市民に理解されません。コロナ禍に市民が苦しいとき、40億円の整備費も、年間1億2800万円の管理費も大きなムダ遣いであることを指摘しておきます。

また市長は、これまで市民が非営利で使用する場合は無料であった広場の利用料を原則有料と答弁されました。

市長に伺います。設置条例案では「市民等に憩い及び集いのための場を提供する」となっています。税金で整備した公共施設である広場を、儲けをあげる事業者しか利用できな

いような運用でいいとお考えですか。

(答弁)

地方自治法では、公の施設について「地方公共団体は、住民の福祉を増進する目的をもってその利用に供するための施設を設ける」と定めています。高い利用料で、市民を利用から締め出し、利益を上げる事業者には貸し出すというのは、自治法の趣旨にも、設置の趣旨にも反します。土日終日利用すれば617,000円の高額利用料で、市民への減免もしないような広場整備と運用は市民に理解・納得は得られません。

続いて、辛島公園整備について伺います。

- 1、辛島公園の当初の整備費用とその内訳、並びに整備年度をお示しく下さい。
 - 2、辛島公園を全面改修した理由は何でしょうか。
 - 3、公園の石の舗装を剥がす必要はあったのでしょうか。理由をお願いします。
 - 4、辛島公園でスケボーしていた若者たちから、「スケボーの場所がなくなった」という声が寄せられました。一方、「街なか広場」は、条例でスケボー禁止です。代替の場所はつくられるのでしょうか。
- 1点目は都市建設局長に、2点目以降は市長に伺います。

(答弁)

「緑が少なく照り返しが暑いから石舗装は撤去した」と言われましたが、それならばなぜ街なか広場は照り返しで暑い石とアスファルトですか、説明がつきません。4億4000万円で整備した辛島公園は、整備当時、熊本市のシンボルとなる地下水、水を生かした公園として整備されたものです。改修が必要なくらい傷んでいけば、全面改修もあるでしょうが、そんな理由は見当たりません。

市長に伺います。市民から「辛島公園の石は全部剥がして緑地にし、一方『街なか広場』に石やアスファルトを張る整備はムダではないか」という声がありました。この声にどう答えられますか。緑が必要なら、「街なか広場」に緑地を設ければ、辛島公園全面改修の4億5000万円は節約できたのではないのでしょうか。

(答弁)

辛島公園の全面改修はムダです。使い勝手が悪いからと、壊れてもいないものをわざわざ壊して作り変えるならば、公共施設はあつちもこつちも壊さなくてはなりません。税金がいくらあっても足りません。そんな感覚で、市庁舎も建替えなければと言われていてはどうか。市民がどんな思いで税金を払っているのか、考えるべきです。

市長は、スケボーは街なか広場のイベントでと言われましたが、高い使用料を払わなければ使えない場所ではなく、無料での日常的な練習場所を若者は望んでいます。若者を追い出すような中心市街地の整備ではいけません。若者の声を直接聞かれるようお願いいたします。

次に、この度公表された中期財政見通しについて伺います。

第1に、「中期財政見通し」収支総括表では、扶助費が2021年度1045億円、減っ

ています。伸び率マイナス0・2%の積算根拠をお示しく下さい。

国の2021年度地方財政計画における「歳出の種類ごとの総額及び前年度に対する増減額」の記載事項のうち、扶助費の主なものである生活保護費・障がい者自立支援給付費の増減額と増減率をお示しく下さい。

第2に、同じく収支総括表の歳出「その他の経費」について、2020年度の1853億円、2021年度の1003億円の内訳と、コロナ対応がどのように反映されているか、ご説明ください。

第3に、同じく収支総括表の歳出「投資的経費」で、庁舎整備費を計上する場合の年度ごとの庁舎整備費額をお示しく下さい。また今回の中期財政見通しの先の影響額見通しはどのようなになりますか。整備費のほとんどが市債で充当されます。市債返還見通しをご説明ください。

第4に、政令市における財政調整基金の一人あたり金額の比較で、最高額、最低額、平均額、熊本市の額と順位をご説明ください。また、これまで本市では、100億程度の財政調整基金積み立てを行ってきました。現行37億円に対する評価と考え方を伺います。1点目は財政局長に、2点目以降は市長に伺います。

(答弁)

扶助費の伸び率マイナスは、保護費やコロナ対策の補正分の減額と答弁されましたが、新型コロナウイルスの収束が見えない今、新年度予算にコロナ対策等が新年度に反映されていないことが問題です。国の地方財政計画でも、扶助費は増となっております、これに沿った見通しが必要です。本市のこれまでの中期財政見通しでも、予定された扶助費額は、実績値で約60億円程度の増額となっております。扶助費を圧縮し、庁舎建設費を入れても、収支が均衡するという見通しには無理があります。庁舎建設を計上した場合、しない場合の差は2〜3億円程度となっておりますが、整備費のほとんどを市債でまかなう、借金に依存した庁舎整備は、将来過大な借金返済を迫られることは間違いありません。庁舎整備を計上しても収支均衡が図られるという今回の中期財政見通しには問題があることを指摘し、質疑を終わります。